

証券コード4651

SANIX




**2011年3月期
第1四半期 決算説明会**

株式
会社 **サニックス**

2010年 8 月 6 日

(注) 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。



目 次

1. 2011年3月期 第1四半期の概況 P. 1

2. 2011年3月期 業績見通し P. 8

免責事項

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報に基づく判断に基づくものです。従いまして、将来時点における実際の収益及び業績は、こうした将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

以下の要因により、将来時点における当社の業績は、本資料内の将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、日本のサービス業の業績動向、他のサービス業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の弊社の予測を超える様々な要因

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

2011年3月期 第1四半期の概況



第1四半期 決算概況

第1四半期については、前期比増収増益

売上高	：	7,274百万円	（前期比増減額	+986百万円）
営業利益	：	611百万円	（前期比増減額	+544百万円）
経常利益	：	593百万円	（前期比増減額	+515百万円）
当期純利益	：	440百万円	（前期比増減額	+356百万円）

◆売上高◆

HS事業部門においては、既存商品売上の堅調な推移に加え、太陽光発電システム売上が加味されたこと、ES事業部門においても、引き続き営業効率の向上に注力した結果、前期比増収となった。

環境資源開発事業部門においては、取引先件数と搬入量が増加し、廃プラ加工処理収入は前期比32.1%増、売電収入は苫小牧発電所の定期修繕期間を前期より短縮したこと、より好条件の売電先に契約を変更したことにより前期比14.1%増となった。また、有機廃液処理は前期比17.7%減となったものの、最終処分場買収に伴う埋立処理収入が加わったことにより、環境資源開発事業部門では前期比29.6%増となり、グループ全体の売上高は、前期比15.7%増となった。

◆利益面◆

前年同期比増収に加え、固定費削減による収益改善の結果、前期比増益となった。

第1四半期 損益の実績と計画差異

(単位:百万円)	2010/3期		2011/3期					
	第1四半期		第1四半期					
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
売上高	6,288	100.0%	7,274	100.0%	115.7%	7,438	97.8%	△ 163
H S 部門	3,925	62.4%	4,403	60.5%	112.2%	4,595	95.8%	△ 191
E S 部門	648	10.3%	649	8.9%	100.2%	628	103.3%	20
環境資源	1,714	27.3%	2,221	30.6%	129.6%	2,214	100.3%	7
売上原価	3,608	57.4%	4,157	57.1%	115.2%	4,359	95.4%	△ 202
売上総利益	2,680	42.6%	3,117	42.9%	116.3%	3,078	101.3%	38
販管費	2,613	41.6%	2,505	34.4%	95.9%	2,552	98.2%	△ 46
営業利益	66	1.1%	611	8.4%	916.6%	526	116.1%	85
経常利益	78	1.2%	593	8.2%	757.5%	506	117.1%	86
当期純利益	84	1.3%	440	6.1%	522.8%	336	130.9%	103

■HS事業部門において、太陽光発電システムが計画比減収となったものの、当該商品は利益率を低く設定しているため、利益面に及ぼす影響は小さく、全体的には収益性の改善により営業利益は計画比増益となった。また、資産除去債務会計基準の適用に伴う特別損失として114百万円を計上。

第1四半期 セグメント別損益の実績と計画差異

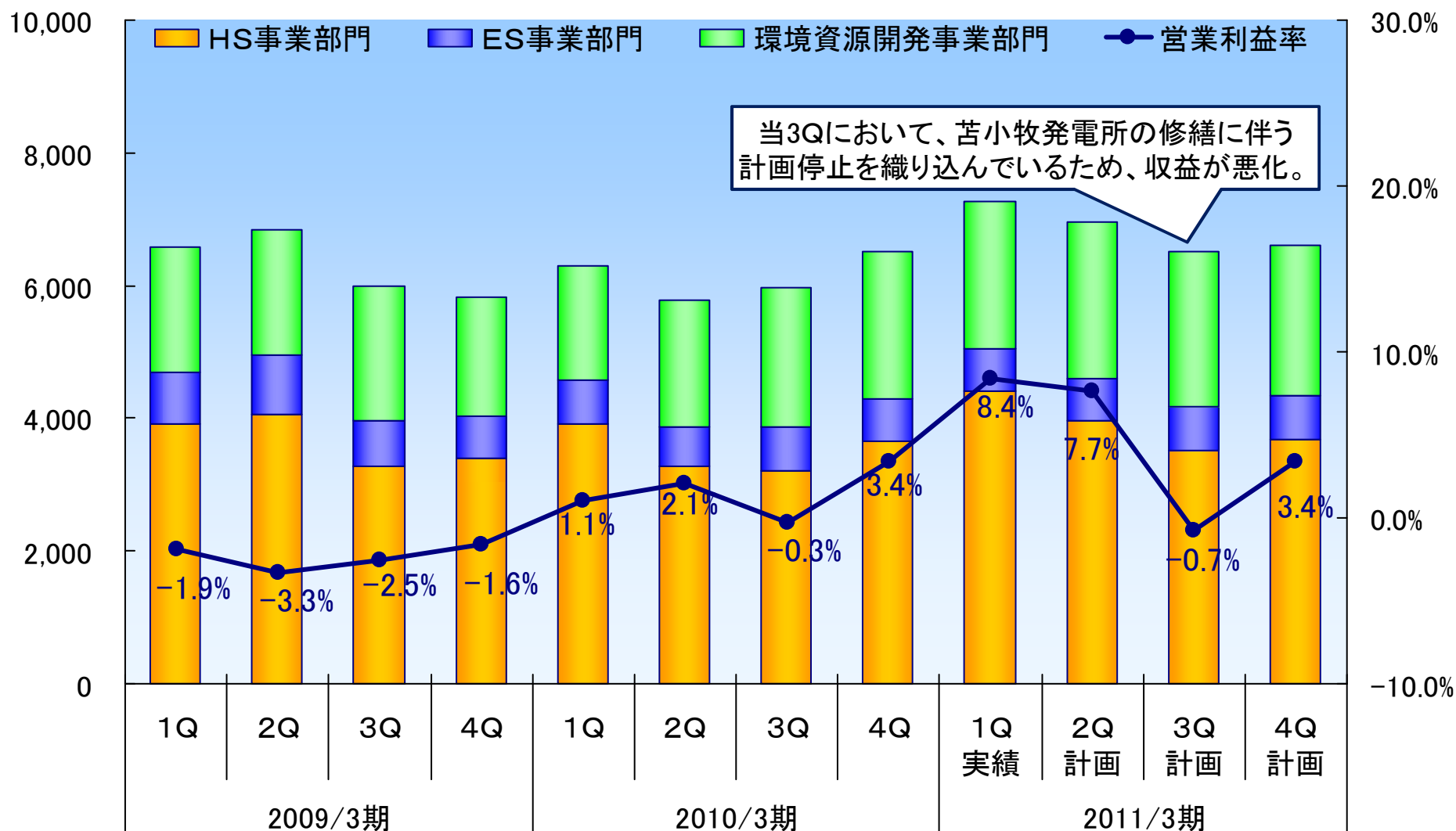
(単位:百万円)

		2010/3期		2011/3期					
		第1四半期		第1四半期					
		実績値	前期比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売上高	3,925	100.5%	4,403	100.0%	112.2%	4,595	95.8%	△ 191
	売上総利益	2,669	100.8%	2,674	60.7%	100.2%	2,496	107.1%	177
	販管費	1,423	77.6%	1,388	31.5%	97.5%	1,403	98.9%	△ 15
	営業利益	1,246	152.7%	1,285	29.2%	103.2%	1,093	117.6%	192
ES 部門	売上高	648	81.9%	649	100.0%	100.2%	628	103.3%	20
	売上総利益	273	88.9%	238	36.7%	87.2%	257	92.6%	△ 19
	販管費	229	72.5%	182	28.1%	79.7%	195	93.3%	△ 13
	営業利益	44	—	55	8.6%	126.4%	61	90.3%	△ 6
環境 資源	売上高	1,714	91.0%	2,221	100.0%	129.6%	2,214	100.3%	7
	売上総利益	△ 263	—	204	9.2%	—	324	63.2%	△ 119
	販管費	400	119.7%	383	17.3%	95.9%	371	103.3%	12
	営業利益	△ 663	—	△ 179	—	—	△ 47	—	△ 131
配賦 不能	営業利益	△ 560	—	△ 551	—	—	△ 581	—	30

第1四半期 セグメント別四半期推移

■セグメント別 売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)



第1四半期 HS事業部門

■ 営業展開を修正し計画比減収となるも、営業利益は増益

太陽光発電システムに関して、政府補助金及び地方自治体補助金の受付開始時期が当初想定より遅れたため、営業展開を修正し、既存商品販売に注力。この結果、特に値下げを実施した床下・天井裏換気システム等が堅調に推移し、既存商品販売は計画以上の結果となった。

また、営業展開の修正に伴い、利益率の高い既存商品販売が堅調に推移し、計画比増収となったことにより、営業利益は計画比17.6%増の1,285百万円となった。

(単位:百万円)	2010/3期				2011/3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		計画値	計画比	計画差異
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	前期比			
売上高合計	3,925	3,286	3,197	3,646	4,403	112.2%	4,595	95.8%	△ 191
シロアリ防除施工	1,524	1,239	951	1,061	1,386	91.0%	1,567	88.5%	△ 181
床下・天井裏換気システム	832	773	675	715	942	113.3%	822	114.6%	120
基礎補修・補強工事	827	619	534	602	678	82.0%	577	117.5%	101
家屋補強システム	112	80	79	121	128	113.9%	103	123.9%	24
太陽光発電システム	—	—	489	597	471	—	963	49.0%	△ 491
その他	629	573	468	548	795	126.4%	560	141.9%	234
営業利益	1,246	851	539	727	1,285	103.2%	1,093	117.6%	192

第1四半期 ES事業部門

■建物防水塗装補修施工等の大型工事受注により計画比増収減益

前期に引き続き営業エリアを絞って賃貸・分譲物件管理会社への営業を展開。高利益率の防錆機器取付施工の販売については管理会社からの紹介が減少し、計画を下回ったものの、建物防水塗装補修施工の大型工事受注により、計画比増収となった。

なお、外注工事費の割合が高い建物防水塗装補修施工が計画比増収となったことに伴い、営業利益は計画比9.7%減の55百万円となった。

(単位:百万円)	2010/3期				2011/3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q				
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
売上高合計	648	580	662	656	649	100.2%	628	103.3%	20
防錆機器取付施工	190	154	151	198	119	62.6%	153	77.6%	△ 34
建物給排水補修施工	201	186	262	218	202	100.3%	226	89.2%	△ 24
建物防水塗装補修施工	51	52	38	55	154	300.5%	49	315.0%	105
その他	205	186	210	183	173	84.7%	199	87.1%	△ 25
営業利益	44	34	70	62	55	126.4%	61	90.3%	△ 6

第1四半期 環境資源開発事業部門

■前年同期比増収、赤字幅は縮小するも力強い改善には至らず

廃プラ加工処理収入及び埋立処分等収入が堅調に推移したものの、有機廃液処理においては外食産業や食品工場からの排出量減少が影響し、計画比減収となった。また、苫小牧発電所においては、定期修繕期間を計画より延長して実施したことにより、稼働日数が計画を下回ったため、計画比未達となった。

利益面では、苫小牧発電所における定期修繕の延長に伴う減収及び修繕費の増加により、営業利益は計画比減益となった。

(単位:百万円)	2010/3期				2011/3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		計画値	計画比	計画差異
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	前期比			
売上高合計	1,714	1,902	2,113	2,204	2,221	129.6%	2,214	100.3%	7
廃プラ加工処理	944	1,007	1,198	1,145	1,248	132.1%	1,164	107.2%	84
有機廃液処理	409	372	353	338	337	82.3%	363	92.7%	△ 26
売電収入	262	374	225	413	299	114.1%	358	83.5%	△ 58
埋立処分等収入	—	—	216	198	233	—	211	110.2%	21
その他	97	147	119	108	103	106.3%	116	89.0%	△ 12
営業利益	△ 663	△ 273	△ 152	△ 22	△ 179	—	△ 47	—	△ 131

SANIX



**2011年3月期
業績見通し**



中期経営計画「Spring plan2012」 (2010年4月22日公表)

～中期経営計画「Spring plan2012」における経営戦略の基本的な考え方～

「環境」に対する社会的なニーズの進化に
合わせ、競争優位性を有するサービスと
商品の提供に経営資源を集中的に投下

計
画
実
行

計画最終年度までに、今後の
本格的な成長のための基盤
構築を完了

(単位:百万円)

		2008/3期	2009/3期	2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期
		実績値	実績値	実績値	計画値	計画値	計画値
売 上 高		26,510	25,233	24,539	27,500	27,850	28,700
	H S 部 門	15,691	14,657	14,056	15,750	15,380	15,470
	E S 部 門	3,340	2,976	2,547	2,570	2,610	2,650
	環 境 資 源	7,478	7,600	7,934	9,180	9,860	10,580
営 業 利 益 (営業利益率)		596	△ 596	390	1,240	1,520	2,000
		2.2%	-2.4%	1.6%	4.5%	5.5%	7.0%
	H S 部 門	4,176	3,470	3,365	2,700	2,350	2,160
	E S 部 門	△ 201	△ 89	211	240	270	290
	環 境 資 源	△ 1,269	△ 1,818	△ 1,112	350	940	1,580
	消去又は全社	△ 2,109	△ 2,159	△ 2,073	△ 2,050	△ 2,040	△ 2,030
経 常 利 益		495	△ 620	224	1,150	1,500	2,000

2011年3月期 通期業績見通し

※業績見通しについて、
変更はありません。

(単位:百万円)		2011/3期							
		第2四半期累計				通期			
		計画値	売上比	前期比	前期比 増減額	計画値	売上比	前期比	前期比 増減額
売上高		14,400	100.0%	119.4%	2,342	27,500	100.0%	112.1%	2,960
	HS部門	8,554	59.4%	118.6%	1,341	15,750	57.3%	112.0%	1,693
	ES部門	1,263	8.8%	102.8%	33	2,570	9.3%	100.9%	22
	環境資源	4,583	31.8%	126.7%	966	9,180	33.4%	115.7%	1,245
売上原価		8,472	58.8%	123.0%	1,583	16,824	61.2%	115.1%	2,203
売上総利益		5,927	41.2%	114.7%	759	10,675	38.8%	107.6%	757
販管費		4,867	33.8%	97.7%	△ 115	9,435	34.3%	99.0%	△ 92
営業利益		1,060	7.4%	573.0%	874	1,240	4.5%	317.7%	849
経常利益		1,016	7.1%	759.7%	882	1,150	4.2%	511.4%	925
当期純利益		820	5.7%	—	759	900	3.3%	—	4,576

2011年3月期 セグメント別損益の見通し

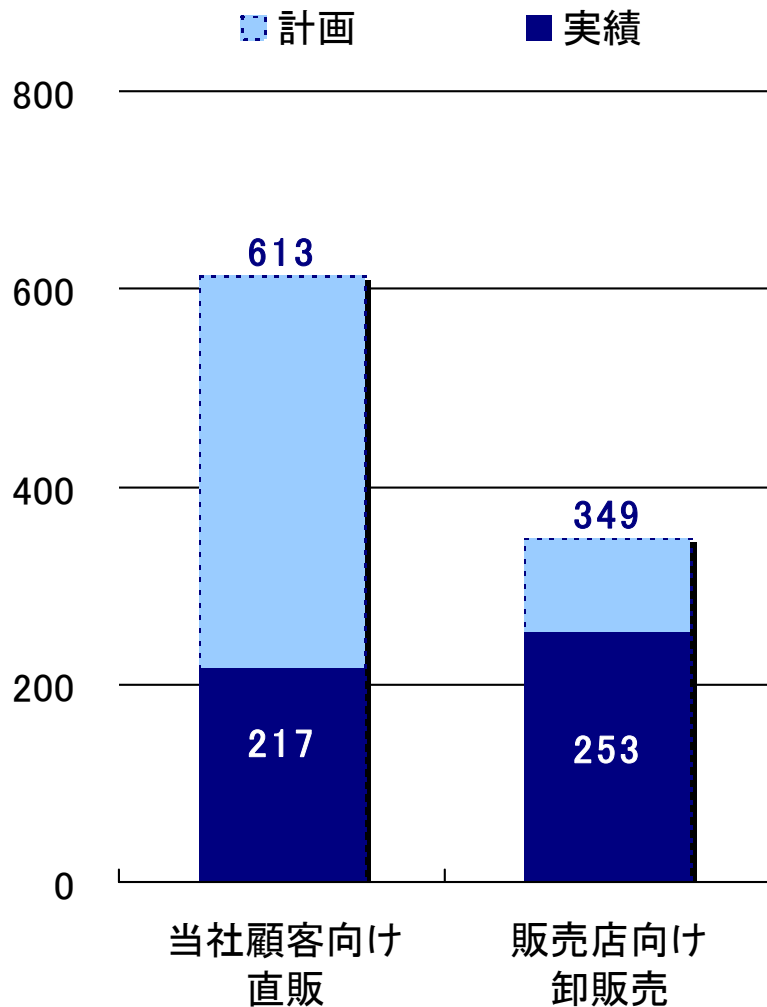
※業績見通しについて、
変更はありません。

(単位:百万円)		2011/3期							
		第2四半期累計期間				通期			
		計画値	売上比	前期比	前期比 増減	計画値	売上比	前期比	前期比 増減
HS 部門	売上高	8,554	100.0%	118.6%	1,341	15,750	100.0%	112.0%	1,693
	売上総利益	4,471	52.3%	92.8%	△ 345	7,810	49.6%	92.4%	△ 645
	販管費	2,651	31.0%	97.5%	△ 67	5,110	32.4%	100.4%	19
	営業利益	1,819	21.3%	86.7%	△ 278	2,700	17.1%	80.2%	△ 665
ES 部門	売上高	1,263	100.0%	102.8%	33	2,570	100.0%	100.9%	22
	売上総利益	515	40.8%	99.1%	△ 4	1,030	40.1%	99.2%	△ 7
	販管費	393	31.2%	89.0%	△ 48	790	30.7%	95.6%	△ 36
	営業利益	122	9.7%	155.8%	43	240	9.3%	113.6%	28
環境 資源	売上高	4,583	100.0%	126.7%	966	9,180	100.0%	115.7%	1,245
	売上総利益	941	20.5%	—	1,109	1,835	20.0%	432.1%	1,410
	販管費	742	16.2%	96.6%	△ 26	1,485	16.2%	96.7%	△ 51
	営業利益	198	4.3%	—	1,135	350	3.8%	—	1,462
配賦 不能	営業利益	△ 1,080	—	—	△ 26	△ 2,050	—	—	23

2011年3月期 太陽光発電システム見通し

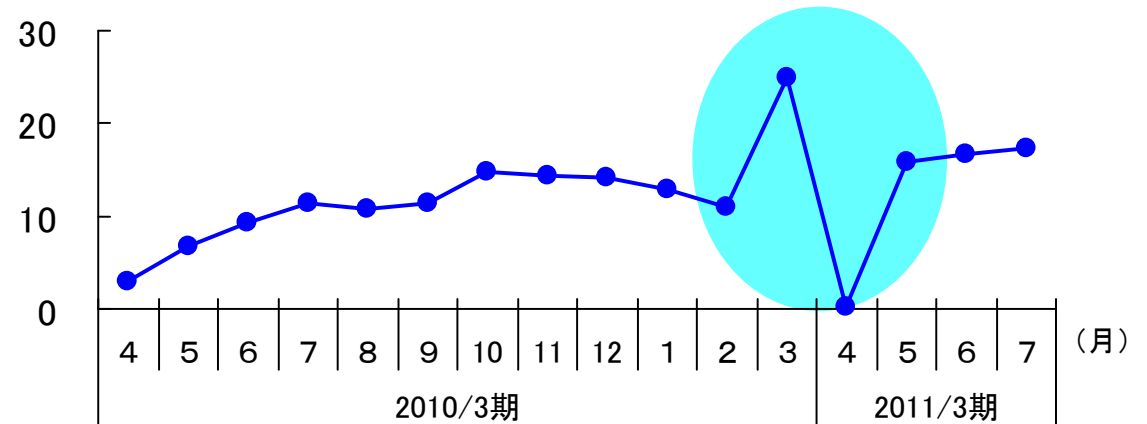
■当第1四半期における 太陽光発電システムの販売計画差異

(単位:百万円)



■JPEC補助金申請受付件数月次推移

(単位:千件)



■太陽光発電システムの1Q計画差異要因

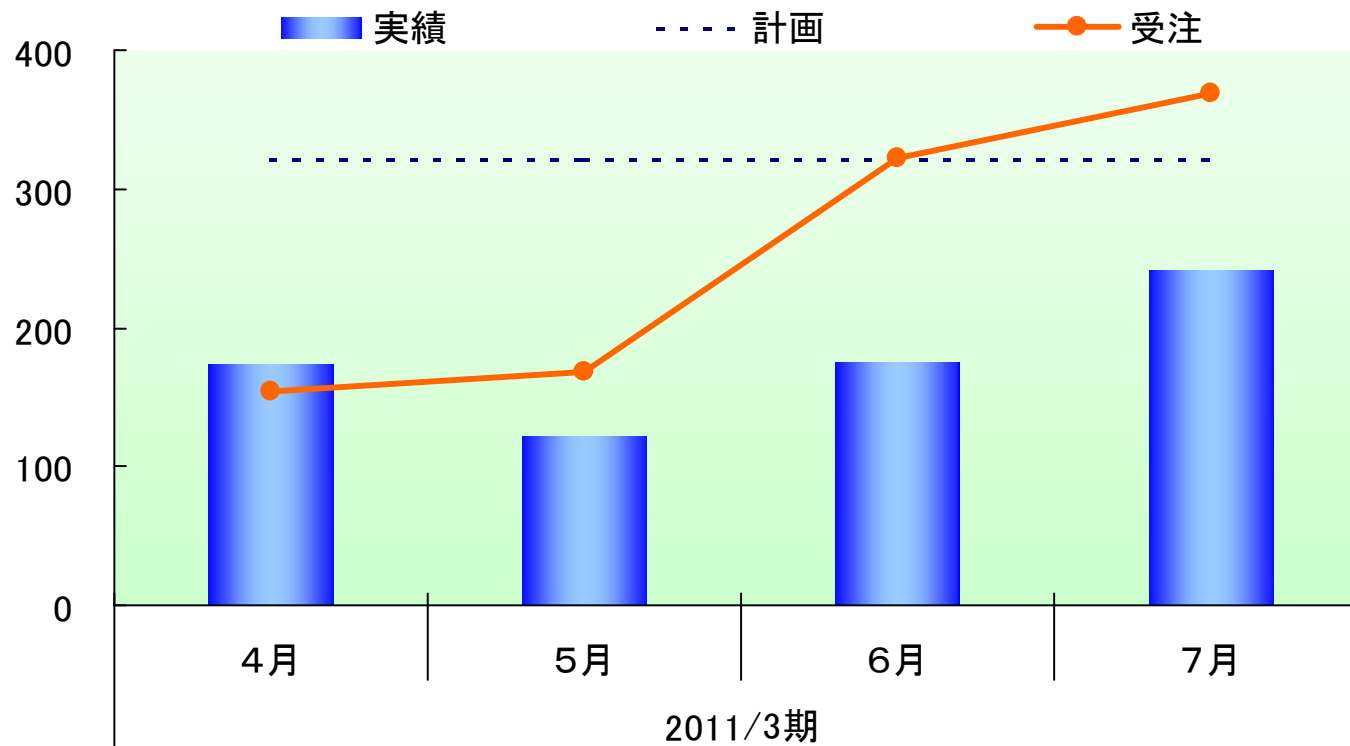
- 第1四半期においては補助金の申請受付開始が想定以上の遅れとなった。
 - 当社顧客向け直販については、既存商品販売に注力。
 - 販売店向け卸販売については、4月以降積極的な営業を展開するも、補助金申請の受付開始遅延に付随し、販売店へのエンドユーザーからの注文が4月において思うように伸びなかった。5月以降はエンドユーザーの動きも活発となり、販売店からの注文が徐々に回復したものの、計画には及ばなかった。

2011年3月期 太陽光発電システム見通し

■太陽光発電システム販売の月間受注及び実績推移

(単位:百万円)

※2010年7月度については速報値を掲載。



販売店向け卸販売

1,500社との
販売店契約を目指す



7月末現在の販売店契約の状況

約1,200社と締結

<内訳>

- 東日本地区:約750件
- 西日本地区:約450件

【太陽光発電システム販売の動向】

期初に生じた補助金申請等の混乱の收拾状況を踏まえ、HS事業部門において、当社顧客向け直販は6月以降、販売店向け卸販売は5月以降に積極的な営業を展開した結果、6月より受注ベースでは計画ラインを越えて推移しており、実績ベースで当第2四半期中には計画ラインを越える見通し。

2011年3月期 太陽光発電システム見通し

■集合住宅向け太陽光発電システム導入補助金を実施されたことを受け、ES事業部門においても「太陽光発電システム」販売を8月より試験的に実施

- 今期に入り、ビル・マンションのオーナー様や賃貸管理会社及び分譲管理会社からの設置相談や見積依頼等の要望が増加。
- 賃貸管理会社向け及び分譲管理会社向けの法人営業を実施している関東地区において、試験的に販売を実施。状況を見て今後は全国で販売を展開。

ビル・マンションオーナー様からのニーズ

オーナー様のメリット追求型

- オーナー様ご自身が売電収入及び電気代削減メリットを得る
- 共用部分の電気として使用することによる電気代削減

入居者のメリット追求型

- マンション各戸の入居者で太陽光発電を活用することにより、付加価値の高いマンション(電気代削減・売電収入・エコ生活等)としてPR可能(入居率向上の一助となり得る)

2011年3月期 資源循環型発電事業見通し

■資源循環型発電事業の1Q計画差異要因

- 定期修繕時に、経年劣化に伴う修繕箇所が発見されたため、万全を期して安定操業を行うため、工期を延長して追加の修繕工事を実施。その結果稼働日数が減少し、収益が計画を下回った。

下記施策により、収益は改善の方向に！



より好条件の売電先へ卸販売契約を変更

●固定単価による取引に変更

卸電力取引所における取引価格は外部環境によって大きく左右されるため、単価下落による減収リスクを回避できるほか、昨年度の平均売電単価よりも高値での取引が可能となった。

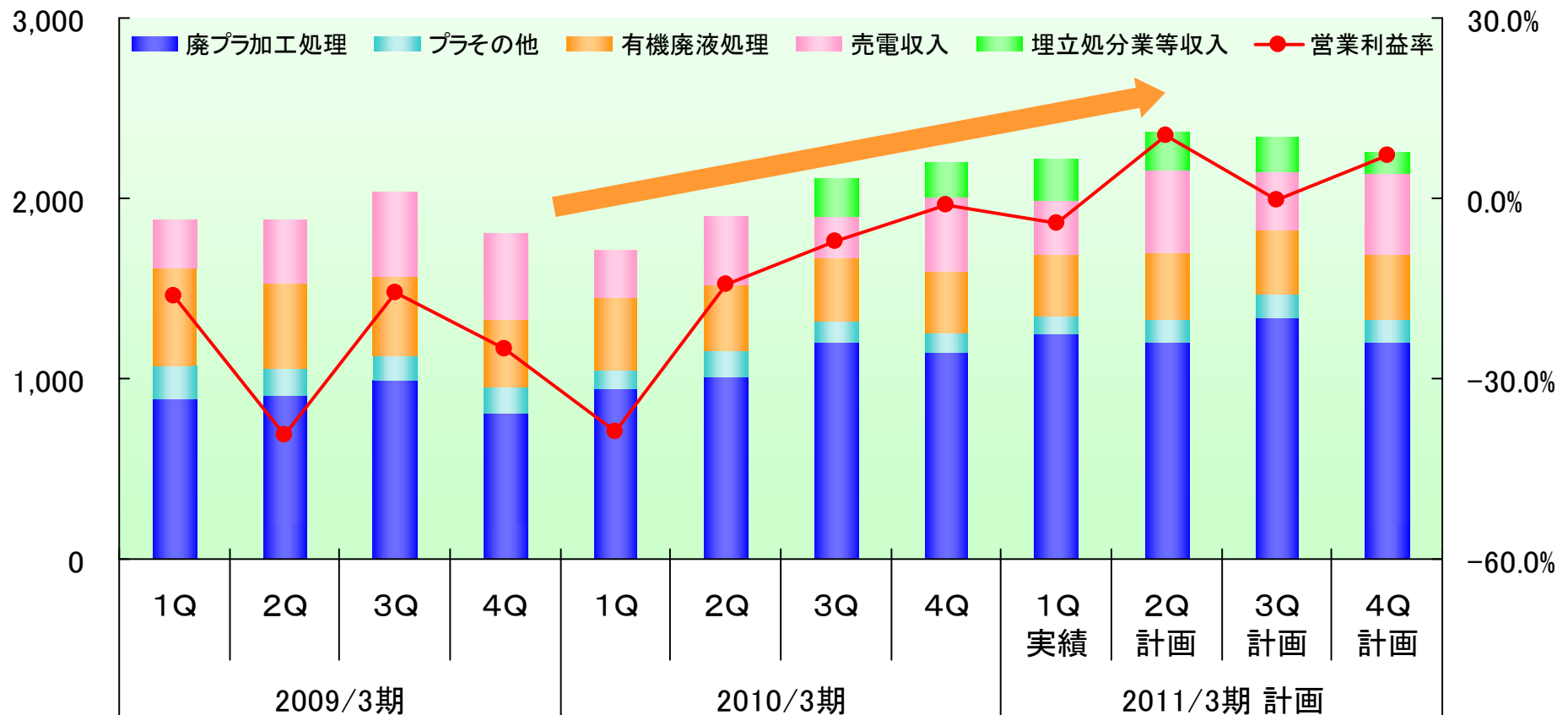
●コスト削減

卸電力取引所においては、当日の売電実績が前日に提示した売電予定量に満たなかった場合は賠償弁済金の支払義務が生じるため、前日に提示した売電予定量を達成するために無理な操業をせざるを得ない場合もあったが、今回の契約変更に伴い、賠償弁済金等のペナルティがないため、設備に無理なく安定的な操業が可能となるほか、コスト削減が可能となった。

2011年3月期 環境資源開発事業部門見通し

■売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)

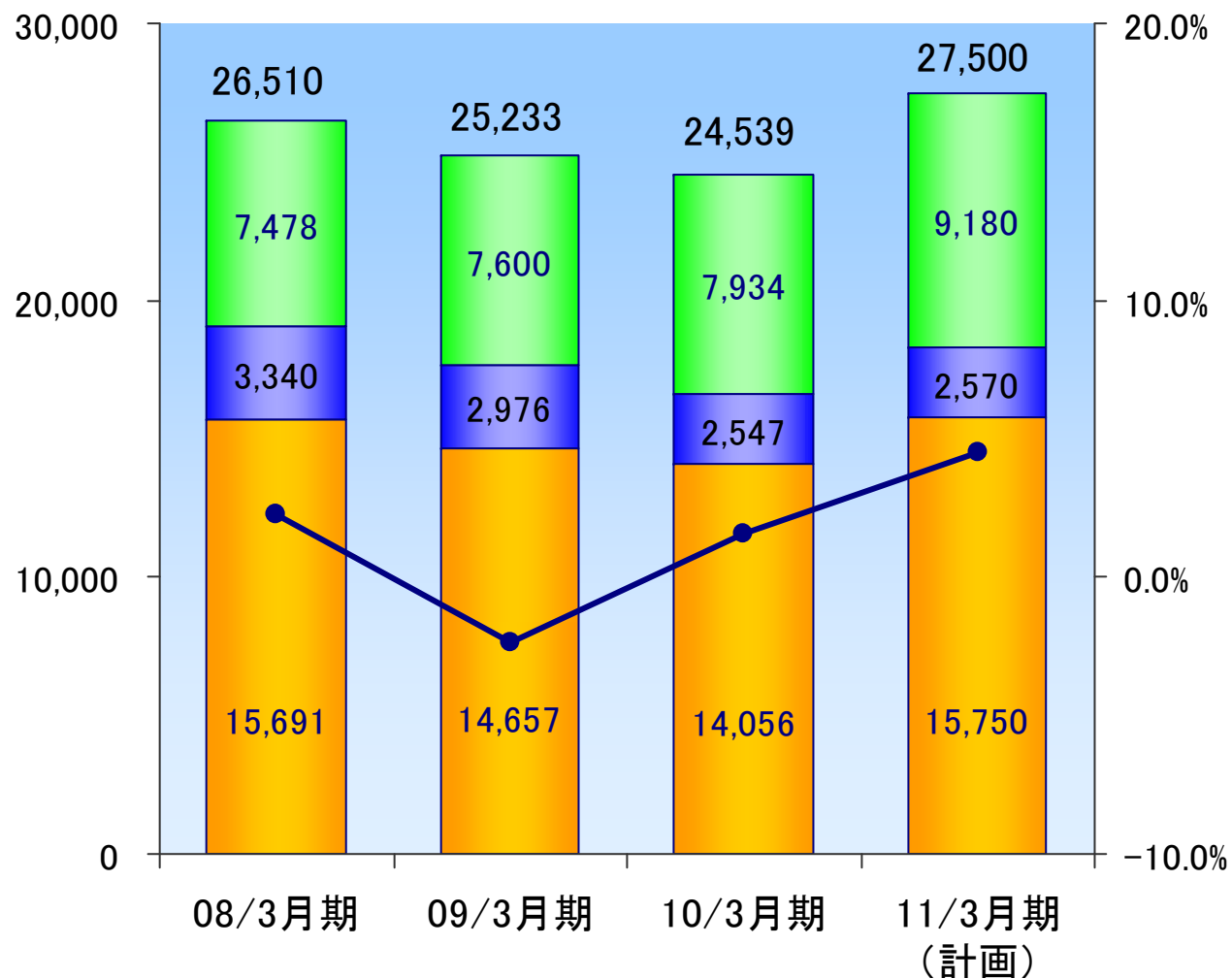


2010年3月期下期における資源循環型発電事業の回復基調が、今期においてより鮮明になり、年間を通して収益性が向上する見通し。

2011年3月期 全社見通し

■セグメント別売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)



2011年3月期見通し

売上高：27,500百万円

営業利益：1,240百万円

営業利益率：4.5%

■ HS部門 ■ ES部門 ■ 環境資源開発部門 ● 営業利益率